

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00708

研究課題名（和文）日本古代国家における中国文明の受容とその展開 律令制を中心に

研究課題名（英文）A Study on Acceptance of Chinese Civilization in Ancient Japan: A Comparative Study of the Ritsuryo System

研究代表者

大津 透（OTSU, TORU）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・教授

研究者番号：70194199

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,100,000円

研究成果の概要（和文）：北宋天聖令の出版を受け、研究代表者以下が分担して、日本令・唐令・宋令の比較研究を進め、奈良平安時代を通じてどのように中国文明が受容されたかについて検討した。国際東方学会議や史学会大会で研究代表者が中心となり中国文明の受容についてシンポジウムを開催し、国際学術交流も進め、論文集『日本古代律令制と中国文明』を出版した。さらに研究代表者は『律令国家と隋唐文明』と『藤原道長 摂関期の政治と文化』の二冊の単著を出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで進めてきた律令制の日唐比較研究を、平安時代まで視野に入れて、広い意味で中国文明の受容として書物や文化も含めて日本文化における中国の意義を明らかにした。社会的な発信としては、研究代表者が岩波新書『律令国家と隋唐文明』を出版し、多くの読者に読まれた。そこでは、律令法が従来いわれるような隋唐の制度の直輸入でなく、日本古代の固有な国制を制度化した側面が強く、奈良時代中期から平安時代初めに、礼制など中国文明の受容が進み、律令国家の新たな段階を迎えることを示した。このことは天皇制についても同様で、天皇制の成立と中国化について新たな見方を提示した。

研究成果の概要（英文）： Since the publication of Tian-Sheng Statutes, we have made further advance in comparative study of Ancient Japan and the Tang and the Song legal codes. We also made clear how Ancient Japan had accepted the Chinese Civilization in Nara and Heian periods. We held related international and domestic symposiums in the 63rd ICES and the 117th annual meeting of the Shigakukai to advance academic exchange between China and Japan and published a symposium book entitled "The Ritsuryo System in Ancient Japan and Chinese Civilization". Otsu made public two related books entitled "The Ritsuryo State and Sui-Tang Civilization" and "Fijiwara no Michinaga".

研究分野：日本古代史

キーワード：日本史 古代史 律令法 中国文明

### 1. 研究開始当初の背景

(1) これまで、大津は、研究代表者として、平成 17 年(2005)度から平成 28 年(2016)度にかけて、科学研究費補助金基盤研究(B)「日唐律令比較研究の新段階」「日唐宋律令法の比較研究と『新唐令拾遺』の編纂」「律令制的人民支配の総合的研究」を組織して、日唐律令の比較研究を中心にして、天聖令公刊以前から研究を継続してきた。

(2) この間 2006 年から 2016 年までほぼ一年おきに国際東方学会会議において、「天聖令と日本律令制研究」などの題で 6 回の国際シンポジウムを開催し、中国社会科学院歴史研究所の天聖令の公刊に参加したメンバーを招聘し、研究会にも参加してもらい学术交流を深めた。国内学会でも 2007 年には史学会大会で大津が企画して「律令制研究の新段階」として、日本史・東洋史合同シンポジウムを行った。その成果は、個別論文のほか、大津透編『日唐律令比較研究の新段階』(山川出版社、2008 年) 大津透編『律令制研究入門』(名著刊行会、2011 年)として出版され、大津ほか編『岩波講座日本歴史』全 22 巻(岩波書店、2013~2016 年)には研究会メンバーによる古代律令制を中心とする論文 8 編が掲載された。

(3) また国際的にも、大津を初め、坂上・丸山・辻などが、北京の歴史研究所や上海師範大学・台湾師範大学での学会に参加し、また中国での天聖令研究の特集号『唐研究』14 号(北京大学出版社、2008 年)の編集に関与し、日本から 4 本の論文を中国語訳して掲載してもらった。

### 2. 研究の目的

日本古代の国家形成には、中国の律令法を継受して律令を作ったことが大きな枠組みをなして画期となった。律令法の分析のためには、もととなった唐令の復原が必要であるが、北宋天聖令の発見と 2006 年の公刊を受けて日唐律令比較研究は新たな段階を迎え、詳細な分析によって中国法継受の特色と意義が明らかになっている。本研究ではこれまで続けてきた律令条文の日唐宋比較研究を一層進めるとともに、『令集解』諸説に引かれる中国漢籍の分析や書籍の輸入状況の解明によって、奈良平安時代の知識人の中国学問受容の実態を明らかにしたい。律令法継受以前の帰化人から、平安時代前期の明法家にまで対象を拡げ、律令法だけでなく漢籍などの中国文明の受容のあり方を分析して、その中で律令制の受容の段階と意味を明らかにすることを目的とする。

### 3. 研究の方法

(1) 前述の目的を達成するために、研究代表者と連携研究者が全員参加する形で 3 ヶ月に一回程度研究会を行って、唐令との比較検討を行ったうえで、律令制の日唐比較とその形成過程および中国文明の日本での受容のあり方を検討するが、具体的には以下の 2 つの研究班組織を作り分担して検討する。「律令」班は、大津・辻・三谷・吉永・武井のほか、研究協力者である神戸・西本・古田が参加し、田令・賦役令・厩牧令・倉庫令など民衆の統治や土地制度、財政などに関する篇目と関市令・獄官令など治安維持・刑罰に関する篇目をとりあげ、各自がそれぞれの専門にあわせて令ごとに分担して日唐の比較検討を行う。天聖令から想定される唐開元二十五年令の条文と日本令の条文の字句や構造を細かく逐条的に比較検討することによって、日本令は何をそのまま継受し、何を継受せず変更したのかがわかり、それによって日本の固有な社会のあり方や人民統治の特徴が浮き彫りになる。「文明」班は、大津・坂上・丸山・榎本が参加し、遣隋使・遣唐使などの交渉、帰化人の学問・知識とその継承、古代日本への中国法典の継受、隋書経籍志や書籍目録による書籍の輸入状況、奈良平安時代の明法家の知識のあり方などを分析して、律令制継受前後での中国文明の受容状況を解明する。それぞれ成果は学会報告や論文にまとめるほか、随時『新唐令拾遺』の原稿を分担して作成する。

(2) これらの研究班を統合する形で、全員参加の形で研究会を開催し、研究発表と討議を行う。またその発表の場として、研究代表者が組織して国際東方学会会議と史学会大会古代史部会でシンポジウムを開催した。研究会と学会シンポジウムの開催状況は以下の通りである。ただし 2020 年度については、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、大学や移動に厳しい制限がかかったため、対面の研究会を行うことはほぼ出来なかった。

#### 【2018 年度】

第 63 回国際東方学会会議(日本教育会館)5 月 19 日、シンポジウム「国家と儀礼 東アジアの中の日本古代文化」、司会:大津、報告:榎本、コメント:辻・丸山

第一回研究会 5 月 20 日(東方学会会議室) 報告:丸山・武井・神戸

第二回研究会 7 月 28 日~29 日(強羅清雲荘) 報告:大津・丸山・辻・西本、見学:ポーラ美

## 術館

第三回研究会 11月18日(東京大学文学部) 報告:三谷・吉永、(11月17日は国立歴史民俗博物館でのシンポジウム「東アジアの古文書と日本の古文書」に参加)

第四回研究会 2019年1月26日~27日(金沢大学) 報告:辻・坂上・丸山・武井・大隅清陽(山梨大学) 見学:津幡町ふるさと歴史館

### 【2019年度】

第一回研究会 5月18日(東方学会会議室) 報告:坂上・榎本

第二回研究会 7月20日~21日(強羅清雲荘) 報告:大津・辻・吉永・古田

第117回史学会大会(東京大学文学部一番大教室)11月10日、古代史部会シンポジウム「日本律令制と中国文明」、企画:大津、司会:武井、報告:榎本・古田、コメント:坂上

第三回研究会 2020年2月22日~23日(湯河原敷島館) 報告:坂上・辻・丸山

### 【2020年度】

第一回研究会 2021年3月6日~7日(東京大学文学部) 報告:辻・丸山

### 【2021年度】

第一回研究会 5月8日(東京大学文学部) 報告:吉永・神戸・大津(5月9日は中止した)

第二回研究会 7月3日~4日(文京区男女平等センター) 報告:榎本・辻・三谷・坂上

第三回研究会 8月20日~21日(京都大学人間環境学研究所) 報告:大津・丸山・武井、京都国立博物館にて「京の国宝」を見学

第四回研究会 12月18日~19日(東京大学文学部) 報告:丸山・武井・神戸

第五回研究会 1月29日~30日(九州大学西新プラザ) 報告:坂上・古田・大津、九州歴史資料館にて「木簡からみた古代の大宰府」を見学

### 【2022年度】

第一回研究会 6月4日~5日(東京大学文学部) 報告:辻・榎本・吉永

第二回研究会 8月26日~27日(京都大学人間環境学研究所) 報告:大津・西本、奈良国立博物館「中将姫と当麻曼荼羅」を見学

第三回研究会 11月26日~27日(湯河原敷島館) 報告:丸山・坂上・神戸

第四回研究会 2023年3月4日~5日(東京大学文学部) 報告:辻・大津・坂上・丸山

(3) 2018年度および2019年度において、ほとんどのメンバーが参加して、中国山西省および四川省において北魏から唐代・宋代にいたる律令制関連遺跡の調査旅行を行った。また北京の社会科学院歴史研究所において、座談会で情報交換を行い、研究の打ち合わせを行った。

2018年9月1日~7日は山西省を中心に調査を行った。太原に到着後、9月2日は、五台県の仏光寺および南禅寺、延慶県の洪福寺を調査、3日は広武明長城を調査ののち、朔州の城壁と崇福寺を調査、応県木塔を調査した。4日は、大同市において大同市博物館・華嚴寺・善化寺・雲崗石窟を調査した。5日には、方山永固陵・明長城および北魏平城城明堂遺跡を調査した。9月6日は北京に到着後、国家歴史博物館を短時間参観ののち、中国社会科学院歴史研究所にて座談会を行い、情報交換を行い、翌日北京首都国際空港より帰国した。

2019年11月25日~30日は四川省を中心に調査を行った。成都空港に到着後、11月26日には四川省樂山市の樂山大仏、さらに自貢市の塩業歴史博物館・桑海井を見学し、27日には大足市(重慶市)に移動して北山石窟・宝頂山石窟の唐宋時代の石刻を調査したのち成都にもどり、28日には成都郊外の都江堰および青城山の道教寺院、とくに唐玄宗の論事勅書を写した石碑を調査し、29日には成都市内にて四川博物院、金沙遺跡博物館、五代前蜀の皇帝王建墓(永陵)、武侯祠博物館を調査し、11月30日に成都より帰国した。

ところが2019年末に中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症が、2020年には世界的な大流行となりパンデミックとなった。特に中国では厳しいゼロコロナ対策がしかれたため、2020年以降の中国での調査や中国との学术交流は不可能となった。それにより2020年度の補助金については繰越し、さらに再繰越しとなり、研究期間も2022年度まで一年延長した。そのため海外調査にかわるものとして、2023年1月に対馬の七世紀後半に築かれた古代山城金田城の現地調査を、対馬市教育委員会の協力を得て、実施した。

## 4. 研究成果

(1) この研究会の最大の成果は、2019年11月に第117回史学会大会で開催した古代史部会シンポジウム「日本律令制と中国文明」を基にして拡大させて編集し、大津透編『日本古代律令制と中国文明』(山川出版社、2020年)を厳しいコロナの状況下で出版したことである。その中で本研究会メンバーは、古田・西本・武井は營繕令・厩牧令・賦役令などをとりあげて日唐の比較研究を進めるとともに、辻・坂上・大津は唐令雑令の復原の問題、日唐の格法典の比較検討、日唐の古文書学の比較などを進め、丸山は古代の朝鮮半島からの移民の役割、榎本・吉永は法と学術の受容の段階を検討し、三谷は七世紀後半天武朝の飛鳥浄御原令の性格を検討し、中国文明の受容のあり方についての新たな歴史像を示すことができた。

(2) 2018年第63回国際東方学者会議で大津が組織したシンポジウム「国家と儀礼」では、唐代

の道教を中心に国家と礼制の関係について大きな成果をあげている雷間氏（中国社会科学院歴史研究所）を招聘し、釈奠などの儀礼の受容や『大唐開元礼』などの中国礼書の性格を議論した。榎本は隋代の『江都集礼』の編纂と伝来について報告し、論文「『江都集礼』の編纂と意義・影響」（金子修一古稀記念『東アジアにおける皇帝権力と国際秩序』汲古書院、2020年）として発表し、榎本は中国からの学問の伝来について、論文集『中国学術の東アジア伝播と古代日本』（勉誠出版、2020年）を編集したほか、古代日本の書物の受容や流通規制、貿易制度についての研究を深めている。

また丸山は「日本古代における中国文書様式の受容と変容」（小島道裕ほか編『古文書の様式と国際比較』勉誠出版、2020年）、「円珍の位記・智証大師諡号勅書と唐の告身」（『国立歴史民俗博物館研究報告』224、2021年）など、中国文書の日本への受容について研究を深めている。大津と丸山は、2017年の北京での学会に招聘されたことをうけて、黄正建主編『中国古文書学研究初編』（上海古籍出版社、2019年）に古文書に関する論文を寄稿している。また文書様式を定める公式令の日唐比較については、坂上が条文排列と開元二十五年令との関係をめぐって、古瀬奈津子編『古代国家の政治と制度』（同成社、2021年）に論文を寄せ、2022年の第66回国際東方学会議でのシンポジウム「東アジア比較古文書学の可能性」において報告するなど、日本古代の書物や文書様式の受容について多くの知見を提供し、研究が進展した。

(3) 一方でそれぞれの令の編目を分担するメンバーは、各自日唐の比較研究を深め、成果をあげた。武井は倉庫令の検討を進め、「日唐律令制における租税受納手続」（同上『古代国家の政治と制度』）を発表し、吉永は「日唐令奴婢売買条文管見」（木本好信編『古代史論聚』岩田書院、2020年）、「日唐における律学博士と明法」（坂上編『古代中世の九州と交流』高志書院、2022年）などを発表している。また律と獄官令を担当する辻も、「唐律における流刑の本質」（『東洋史研究』77-2、2019年）を発表した。なかでも特筆すべきは、研究協力者として参加してきた若手の神戸が、賦役令に関して発表してきた論文をまとめて、単著『日本古代財務行政の研究』（吉川弘文館、2022年）を刊行したことであり、天聖令の詳細な検討と比較によって日本古代財政史研究を大きく進展させたものとして特筆される。

田令を担当している三谷は、「班田制と律令法」（小口雅史編『律令制と日本古代国家』同成社、2018年）を発表したほか、単著『大地の古代史』（吉川弘文館、2020年）を出版し、土地と人々の関係や意識を、法制だけでなくより広い視点から論述している。また医疾令を担当している丸山も「唐医疾令断簡」について発表し（同上『律令制と日本古代国家』）、さらに共編著『本草和名 影印・翻訳と研究』（汲古書院、2021年）を出版し、一〇世紀に編纂された和漢の薬名辞書である『本草和名』を翻刻しテキストを提供するとともに、自身の医疾令復原に係る3編の論文を補論として収録している。

(4) 研究代表者である大津自身は、『律令国家と隋唐文明』（岩波新書、2020年）をコロナの直前に出版した。これはずっと続けてきた律令制比較研究の総括というべきもので、東アジアのなかでの国家形成と律令制の意義を考えたものである。八世紀初頭の律令制は大和朝廷以来の固有なあり方を受け継ぐもので、奈良時代中期以降平安時代にかけて礼の継受という形で中国文明を取り入れ、律令国家の新しい段階にいたることを示した。その中で天皇制の成立とその性格の変化についても論じ一般的な理解を大きく改めているが、2022年の第120回史学会大会公開シンポジウム「君主号と歴史世界」においては、「天皇号の成立と唐風化」と題して報告した。これは史学会理事長として、学会を正常化させるという使命も担って参加したものである。また律令制研究に関連して、『『令集解』研究の回顧と展望』（小口雅史編『古代東アジア史料論』同成社、2020年）を発表し、律令法研究の中核となる重要だが難解な史料である『令集解』について研究史の整理と今後の見通しを述べた。また「天武朝の年中行事と人麻呂歌集」（『萬葉集研究』第四十二集、塙書房、2023年）を発表し、雑令の日唐比較から飛鳥浄御原令を復原して天武朝の文化の性格を明らかにした。稲岡耕二先生の学恩に報い、萬葉集研究にわずかでも貢献できればと思っている。

(5) さらに大津は、以下の出版および出版企画に関与した。律令の比較研究に優れた成果をあげ、今日の古代史研究の基礎を築いたのが吉田孝氏であるが、その逝去をうけて、同氏の著書にまとめられていない論文を集めて『続 律令国家と古代の社会』（岩波書店、2018年）を出版し、解説を書いた。これは学会にとって大きな貢献となったと考えている。また『日本書紀』全訳（笹山晴生ほか訳）を中公文庫として出版するにあたって、解説的なエッセイ「『日本書紀』と史実とのあいだ」を記した。また2021年東方学会秋季学術大会では、講演「藤原道長の史的意義」をオンラインで行ったが、さらに『藤原道長 摂関期の政治と文化』（山川出版社、2022年）を出版した。藤原道長の伝記だけでなく、摂関期の政治について律令制の延長線上でとらえ、また道長の文化史上の意義についても広い視点で考えた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計34件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大津透	4. 巻 688
2. 論文標題 関見『帰化人 - 古代の政治・経済・社会を語る』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 17-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻正博	4. 巻 29
2. 論文標題 潼関と神都 西周時代の四面関	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国史学	6. 最初と最後の頁 169-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山裕美子	4. 巻 22
2. 論文標題 平安時代の医学と『病草紙』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 杏雨	6. 最初と最後の頁 6-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎本淳一	4. 巻 15
2. 論文標題 『日本国見在書目録』著録書籍の総巻数について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鴨台史学	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎本淳一	4. 巻 854
2. 論文標題 書評と紹介：柳川響著『藤原頼長 「悪左府」の学問と言説』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 89-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古田一史	4. 巻 218
2. 論文標題 雑工戸の変質と造兵司の解体	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 235-252
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神戸航介	4. 巻 218
2. 論文標題 平安時代の検交替使と朝使	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 221-234
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津透	4. 巻 114
2. 論文標題 国家と儀礼 - 東アジアの中の日本古代文化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東方学会報	6. 最初と最後の頁 22 - 24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻正博	4. 巻 77 - 2
2. 論文標題 唐律における流刑の本質	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東洋史研究	6. 最初と最後の頁 1 - 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三谷芳幸	4. 巻 39
2. 論文標題 天皇と受領	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本史学集録	6. 最初と最後の頁 1 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉永匡史	4. 巻 11
2. 論文標題 唐代奴婢売買法制考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 金沢大学歴史言語文化学系論集 史学・考古学篇	6. 最初と最後の頁 1 - 18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武井紀子	4. 巻 40
2. 論文標題 伊場木簡からみた地方財政	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 木簡研究	6. 最初と最後の頁 191 - 202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神戸航介	4. 巻 212
2. 論文標題 律令租税免除制度の研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 1 - 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武井紀子	4. 巻 91
2. 論文標題 書評と紹介 小口雅史編『律令制と日本古代国家』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法政史学	6. 最初と最後の頁 110 - 113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山裕美子	4. 巻 36
2. 論文標題 書評 東海林亜矢子『平安時代の后と王権』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 総合女性史研究	6. 最初と最後の頁 77 - 81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津透	4. 巻 130編5号
2. 論文標題 2020年の歴史学界－総説－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂上康俊	4. 巻 721
2. 論文標題 入唐僧と刺史の印信	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 32-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂上康俊	4. 巻 2021年3期
2. 論文標題 日唐格典の編纂と体裁的特徴	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中外論叢	6. 最初と最後の頁 159-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山裕美子	4. 巻 224
2. 論文標題 円珍の位記・智証大師諡号勅書と唐の告身	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 29-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎本淳一	4. 巻 70
2. 論文標題 書評：上野利三著「飛鳥浄御原律の存否について」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法制史研究	6. 最初と最後の頁 316-317
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三谷芳幸	4. 巻 129編10号
2. 論文標題 書評：松田幸彦著『古代日本の国家と土地支配』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 85-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三谷芳幸	4. 巻 883
2. 論文標題 オホミタカラと天皇	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 21-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神戸航介	4. 巻 1007
2. 論文標題 唐賦役令継受の歴史的意義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 38-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神戸航介	4. 巻 100
2. 論文標題 吉田孝『律令国家と古代の社会』と近年の律令制研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 民衆史研究	6. 最初と最後の頁 5-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉永匡史	4. 巻 14
2. 論文標題 日唐の將軍号に関する小考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 金沢大学歴史言語文化系論集	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 丸山裕美子	4. 巻 13
2. 論文標題 徳川家康による古典籍の蒐集 「富士見亭文庫」成立以前	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知県立大学日本文化学部論集	6. 最初と最後の頁 135-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津透	4. 巻 131編5号
2. 論文標題 2021年の歴史学界ー総説ー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 榎本淳一	4. 巻 1025
2. 論文標題 吉川真司編 『シリーズ古代史をひらく 国風文化：貴族社会のなかの「唐」と「和」を読んで	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 28-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三谷芳幸	4. 巻 890
2. 論文標題 飛鳥浄御原令の編纂	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 21-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三谷芳幸	4. 巻 25
2. 論文標題 書評：土肥義和『燉煌文書の研究』前篇（第一部均田制）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 唐代史研究	6. 最初と最後の頁 181-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大津透	4. 巻 9
2. 論文標題 略論唐令復原与《天聖令》 以《賦役令》為中心	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法律史訳評	6. 最初と最後の頁 176-201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 榎本淳一
2. 発表標題 律令制における法と學術
3. 学会等名 第117回史学会大会古代史部会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古田一史
2. 発表標題 日本宮繕令と律令軍制
3. 学会等名 第117回史学会大会古代史部会シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大津透
2. 発表標題 シンポジウム「国家と儀礼－東アジアのなかの日本古代文化」企画・主催
3. 学会等名 第63回国際東方学会議（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 榎本淳一
2. 発表標題 『江都集礼』の編纂と意義・影響
3. 学会等名 第63回国際東方学会議（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丸山裕美子
2. 発表標題 中国文書様式の受容と変容
3. 学会等名 国際シンポジウム「東アジアの古文書と日本の古文書」（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 丸山裕美子
2. 発表標題 医書類の群外接続
3. 学会等名 国際シンポジウム「断片がつなぐ世界各地の吐魯番出土文書コレクション（国際学会）」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 辻正博
2. 発表標題 『唐会要』のテキストをめぐって
3. 学会等名 唐代史研究会夏期シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武井紀子
2. 発表標題 古代日本における禁物規定と鉄
3. 学会等名 2018年度東北史学会・弘前大学国史研究会合同大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 辻正博
2. 発表標題 敦煌・トルファン出土法典文献の残存形態
3. 学会等名 国際シンポジウム「断片がつなぐ世界各地の吐魯番出土文書コレクション（国際学会）」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大津透
2. 発表標題 古代天皇制の成立と特質
3. 学会等名 宮城県高等学校社会科教育研究会歴史部会例会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 神戸航介
2. 発表標題 唐賦役令継受の歴史的意義
3. 学会等名 2020年歴史学研究会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 武情・丸山裕美子
2. 発表標題 『本草和名』諸本の研究・補論
3. 学会等名 訓点語学会春季研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大津透
2. 発表標題 藤原道長の史的意義
3. 学会等名 東方学会秋季学術大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大津透
2. 発表標題 天皇号の成立と唐風化
3. 学会等名 第120回史学会大会公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 丸山裕美子
2. 発表標題 シンポジウム「東アジア比較古文書学の可能性」企画・主催
3. 学会等名 第66回国際東方学会議（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 坂上康俊
2. 発表標題 唐公式令条文排列の復原 「牒」の規定を中心に
3. 学会等名 第66回国際東方学会議（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計30件

1. 著者名 大津 透	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 230
3. 書名 律令国家と隋唐文明	

1. 著者名 榎本 淳一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 234
3. 書名 日唐賤人制度の比較研究	

1. 著者名 三谷 芳幸	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 220
3. 書名 大地の古代史	

1. 著者名 大津 透、丸山 裕美子、黄正建主編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 上海古籍出版社（上海）	5. 総ページ数 441
3. 書名 中国古文書学研究初編	

1. 著者名 大津 透、日本歴史学会編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 260
3. 書名 人とことば 人物叢書別冊	

1. 著者名 榎本淳一・吉永匡史・河内春人編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 229
3. 書名 中国学術の東アジア伝播と古代日本	

1. 著者名 辻 正博、陳俊強主編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 元華文創（台北）	5. 総ページ数 578
3. 書名 中国歴史文化新論 高明士教授八秩嵩寿文集	

1. 著者名 丸山 裕美子、小島道裕ほか編・国立歴史民俗博物館監修	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 432
3. 書名 古文書の様式と国際比較	

1. 著者名 榎本 淳一、金子修一先生古稀記念論文集編集委員会編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 557
3. 書名 東アジアにおける皇帝権力と国際秩序	

1. 著者名 吉田孝著、大津透編集・解説	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 374
3. 書名 続律令国家と古代の社会	

1. 著者名 大津透、広瀬和雄ほか編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 雄山閣出版	5. 総ページ数 302
3. 書名 畿内の古代学 1 畿内制	

1. 著者名 三谷芳幸、丸山裕美子、坂上康俊、小口雅史編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 369
3. 書名 律令制と日本古代国家	

1. 著者名 榎本淳一、神戸航介、吉永匡史、古瀬奈津子編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 竹林舎	5. 総ページ数 517
3. 書名 律令国家の理想と現実	

1. 著者名 丸山裕美子、岡田荘司編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 竹林舎	5. 総ページ数 549
3. 書名 古代の信仰・祭祀	

1. 著者名 大津透編、坂上康俊・榎本淳一・丸山裕美子・辻正博・三谷芳幸・吉永匡史・武井紀子・西本哲也・古田一史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 310
3. 書名 日本古代律令制と中国文明	

1. 著者名 大津透・榎本淳一・吉永匡史・辻正博、小口雅史編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 410
3. 書名 古代東アジア史料論	

1. 著者名 榎本淳一・吉永匡史、木本好信編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 852
3. 書名 古代史論叢	

1. 著者名 井上光貞監訳、笹山晴生訳、大津透解説	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 570
3. 書名 日本書紀(下)	

1. 著者名 榎本淳一、気賀澤保規編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 404
3. 書名 隋唐洛陽と東アジア：洛陽学の新天地	

1. 著者名 坂上康俊、河内祥輔・小口雅史ほか編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 儀礼・象徴・意思決定—日欧の古代・中世書字文化—	

1. 著者名 坂上康俊・武井紀子・榎本淳一、古瀬奈津子編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 519
3. 書名 古代日本の政治と制度 律令制・史料・儀式—	

1. 著者名 丸山裕美子・武倩共編著	4. 発行年 2021年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 604
3. 書名 本草和名 影印・翻刻と研究一	

1. 著者名 辻正博、荒川正晴責任編集	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 岩波講座世界歴史06 中華世界の再編とユーラシア東部	

1. 著者名 辻正博編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 386
3. 書名 中国前近代の関津と交通路	

1. 著者名 大津透	4. 発行年 2022年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 98
3. 書名 藤原道長 摂関期の政治と文化	

1. 著者名 神戸航介	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 394
3. 書名 日本古代財務行政の研究	

1. 著者名 坂上康俊編、吉永匡史	4. 発行年 2022年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 367
3. 書名 古代中世の九州と交流	

1. 著者名 武井紀子・吉永匡史、柿沼陽平・飯山知保編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 上海古籍出版社	5. 総ページ数 221
3. 書名 貴族与士大夫 青年学者眼中的中国史	

1. 著者名 榎本淳一、広瀬和雄ほか編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 332
3. 書名 講座畿内の古代学 軍事と対外交渉	

1. 著者名 榎本淳一、新古代史の会編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 270
3. 書名 人物で学ぶ日本古代史 3 平安時代編	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	神戸 航介  (KANBE Kousuke)		
研究協力者	西本 哲也  (MISHIMOTO Tetsuya)		
研究協力者	古田 一史  (FURUTA Kazuhumi)		
連携研究者	坂上 康俊  (SAKAUE Yasutoshi)  (30162275)	九州大学・人文科学研究院・教授   (17102)	
連携研究者	榎本 淳一  (ENOMOTO Junichi)  (80245646)	大正大学・文学部・教授   (32635)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	丸山 裕美子  (MARUYAMA Yumiko)  (00315863)	愛知県立大学・日本文化学部・教授    (23901)	
連携研究者	辻 正博  (TSUJI Masahiro)  (30211379)	京都大学・人間・環境学研究科・教授    (14301)	
連携研究者	三谷 芳幸  (MITANI Yoshiyuki)  (80756271)	筑波大学・人文社会系・准教授    (12102)	
連携研究者	吉永 匡史  (YOSHINAGA Masahumi)  (20705298)	金沢大学・歴史言語文化学系・准教授    (13301)	
連携研究者	武井 紀子  (TAKEI Noriko)  (30736905)	日本大学・文理学部・教授    (32665)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 第63回国際東方学会議（東京会議）	開催年 2018年～2018年
-----------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------